

# 社会

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

表1 得点分布

得点	650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	13	2.0
80～89	74	11.4
70～79	105	16.2
60～69	117	18.0
50～59	117	18.0
40～49	94	14.5
30～39	68	10.5
20～29	48	7.4
10～19	14	2.2
1～9	0	0.0
0	0	0.0

\* 合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.9%)の結果である。

\* %の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

表2 小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	大問	小問	正答率	
1	(1)	65.4	3	(1)	75.1	
	(2)	42.9		(2)	56.3	
	(3)	70.8		(3)	ア	73.5
	(4)	記号			78.0	イ
		理由		41.4	(4)	78.0
	(5)	記号		81.4	(5)	26.0
		理由		45.8	2	(1)
	(1)	91.4		(2)		61.1
	(2)	54.8		(3)		81.5
	(3)	43.1		(4)		ア
(4)	78.7	イ	43.0			
(5)	59.9	(5)	65.1			
小計			小計			
58.5			57.0			
2	(1)	76.8	4	(1)	54.5	
	(2)	67.0		(2)	45.1	
	(3)	A		82.4	(3)	58.4
		B		86.1	(4)	27.0
	(4)	29.6	小計			
	(5)	56.6	43.8			
	2	(1)	61.1			
		(2)	81.5			
		(3)	54.4			
		(4)	55.7			
(5)		41.8				
小計			60.5			

表3 大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	地理的分野	74.3	71.5	54.9	61.8	58.5
2	歴史的分野	61.4	67.3	61.6	56.8	60.5
3	公民的分野	66.3	59.4	52.3	54.9	57.0
4	3分野融合	62.7	72.9	31.0	68.9	43.8

## 2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点( )は、54.9点で昨年度と比べやや下降した(昨年度56.6点)。

( )平均点は全日制すべての合格者5,037人のものである。

表1 について、70点以上の人数は全体の29.6%で、ほぼ昨年並となった(昨年度29.4%)。

40点未満の人数は20.1%で昨年度に比べ増加した(昨年度14.6%)。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

表2 について、正答率80%以上の問題数は6問で、資料を用いて基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(1の1(5)・記号)、2の1(3)、2(2)、3の2(3)。正答率40%未満の問題数は3問で、文化面も含めた各時代の特色を理解する能力に加え(2の1(4))、考察したことを表現する力をみる問題の正答率が低かった(1の1(5)・理由)、3の1(5)、4(4)。

表3 について、分野別の正答率は歴史的分野が高く、3分野融合問題が低かった。昨年度との比較では、歴史的分野と公民的分野で正答率が上がり、融合問題はかなり下がった。

### 3 標準解答及び大問ごとのねらい

#### 1 標準解答

1	(1)	ウ		(2)	ア	(3)	エ
	(4)	記号	Z	理由	(例) 日本は島国であり、また離島も多いため、アメリカに比べると、国土面積がせまいわりには、経済水域の面積が広いから。		
	(5)	記号	ウ	理由	(例) 資料 より牛を食べないヒンドゥー教徒が多く、また資料 より人口が多い国とわかるから。		
2	(1)	東北 地方		(2)	イ	(3)	(例) 北西の季節風が山地にあたって、たくさんの雪が降る
	(4)	ウ	(5)	(例) 廃棄材を集めて燃やし、発電する			

#### ねらい

「地域調査の調査テーマを選ぶ」ために作成した、世界の国々の地域的特色に関する地図や資料、また、「地域の活性化」というテーマで作成した地域的特色や日本の地域構成に関する資料などを題材にした。それらを基に、世界や日本の様々な地域に関する地理的認識について基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見るようにした。

#### 2 標準解答

1	(1)	エ		(2)	(例) 調・庸・雑徭の負担を減らそうとしたから。				
	(3)	A	藤原		B	摂関		(4)	イ
	(5)	ア	(例) 小作人になる者			イ	(例) 作業所で働く者		
2	(1)	イ		(2)	富国強兵		(3)	ウ	
	(4)	(例) 1945年、原子爆弾が投下され、多くの犠牲者が出たため、戦後、広島市の人々が平和への願いを発信しようとしたから。							
	(5)	(例) アメリカを中心とする資本主義の西側陣営と、ソ連が率いる社会主義の東側陣営とが対立していた。							

#### ねらい

「かけ算九九と歴史」というテーマで作成した、「九九」の記述に関する年表と資料、また、「戦争と平和」というテーマで作成した資料などを題材にした。それらを基に、各時代の特色を踏まえながら、我が国の歴史の大きな流れについて、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を用いて、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見るようにした。

**3** 標準解答

1	(1)	象徴	(2)	公共の福祉	(3)	ア	(例) 女性の働く割合が高くなっている
	(3)	イ	(例) 保育所の整備			(4)	エ
	(5)	(例) 地方債の発行残高が増加したことと、民生費の割合が増えていくことで、財政難が予想されていたから。					
2	(1)	公衆衛生	(2)	ウ	(3)	<input checked="" type="checkbox"/>	(4) ア 買い
	(4)	イ	(例) 資金量を増やし、企業がお金を借りにやすくする。				
	(5)	(例) 時間を気にせず、移動しなくても、さまざまな商品を比較し、購入することができるから。					

ねらい

「憲法と暮らし」をテーマに調べた資料、また、「地域の将来」というテーマで調べた資料を題材にした。それらを基に、日本国憲法の仕組みや経済の仕組みについて、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見るようにした。

**4** 標準解答

(1)	ア	(2)	ア	(3)	(例) 安い香辛料を直接手に入れる
(4)	(例) 多くの人が選挙を棄権すると、一部の人たちによって政治の大切なことが決められてしまうことになるから。				

ねらい

地域の広報紙を基に、社会科3分野を融合する視点から日本や宮崎県について学習する場面を設定した。それらを基に、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見るようにした。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			正答率	
				記号選択	用語記述	記述	知識理解	思考判断表現	資料活用技能		
1	1	(1)	本初子午線の通過する位置について理解している。							65.4	
		(2)	モンゴルの伝統的な住居の写真から、雨温図を判断することができる。							42.9	
		(3)	原油の産出量に関する統計資料を、どの主題図で表現するのが適しているか判断することができる。							70.8	
		(4)	アメリカと日本の国土面積と経済水域を比較して、日本の経済水域の特徴を説明することができる。							記78.0 理41.4	
		(5)	牛肉と砂糖の消費量に関する2つの資料から、インドの宗教と人口について資料を多角的に考察することができる。							記81.4 理45.8	
	2	(1)	東北地方の位置について理解している。								91.4
		(2)	資料から第二次産業が発展している市町村を判断することができる。								54.8
		(3)	北陸地方で伝統工業が発展した理由を、冬の気候の特徴を関連付けて説明することができる。								43.1
		(4)	外国人宿泊客数の推移についての資料を読み取ることができる。								78.7
		(5)	再生可能エネルギーの一つであるバイオマス発電について資料を基に考察し、説明することができる。								59.9
2	1	(1)	甲骨文字について理解している。								76.8
		(2)	律令国家のもとでの人々の暮らしについて、資料を基に考察し、説明することができる。								67.0
		(3)	藤原氏による摂関政治について理解している。								A 82.4 B 86.1
		(4)	室町時代の文化について理解している。								29.6
		(5)	貨幣経済にともなってみられた農村の変化について、資料を基に考察し、説明することができる。								アイ 56.6
	2	(1)	城下町について、資料を基に考察し、判断することができる。								61.1
		(2)	富国強兵について、資料を基に考察し、判断することができる。								81.5
		(3)	ワシントン条約の内容を資料から判断することができる。								54.4
		(4)	広島市の歩みについて、戦前と戦後を比較し、資料を基に考察し、説明することができる。								55.7
		(5)	第2次世界大戦後の冷戦について、朝鮮半島の構図を示した資料を基に考察し、説明することができる。								41.8
3	1	(1)	天皇の地位について理解している。								75.1
		(2)	公共の福祉について具体的事例を通して理解している。								56.3
		(3)	平等権について、女性の労働に関する資料を基に考察し、説明することができる。								ア73.5 イ52.3
		(4)	司法権の独立について、具体的事例を通して理解している。								78.0
		(5)	市町村合併の背景について、資料を基に考察し、説明することができる。								26.0
	2	(1)	公共衛生について理解している。								49.8
		(2)	日本の現代企業について、具体的事例を通して理解している。								61.1
		(3)	銀行の利益について理解している。								81.5
		(4)	日本銀行の金融政策について、資料を基に考察し、説明することができる。								ア61.1 イ43.0
		(5)	情報化と商業について、資料を基に考察し、説明することができる。								65.1
4	(1)	日本の位置について理解している。								54.5	
	(2)	日本との貿易および地域経済圏について、資料を基に考察し、判断することができる。								45.1	
	(3)	15世紀末ごろヨーロッパ人がアジアに來航した理由について、資料を基に考察し、判断することができる。								58.4	
	(4)	投票率の低下の問題について、資料を基に考察し、論述することができる。								27.0	